（別紙 3 ）　　令和　4　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4491200012		
法人名	有限会社　スマイルリース		
事業所名	グループホーム　陽だまりの丘		
所在地	大分県豊後大野市千歳町新殿1233番地1		
自己評価作成日	令和5年5月17日	評価結果市町村受理日	令和5年7月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4491200012-

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4ー110号　チュリス古国府壱番館　1F
訪問調査日	令和5年6月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人の理念でもある「人尊優顔の精神で地域福祉に貢献します」という考えに基づき、優しい心と思いやりを持って、認知症の利用者に対応している。特に、パーソンセンタードケア、ユマニチュードの療法を取り入れて、「認知症マインド療法」として取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人の理念と事業所独自の行動指針「優しい心と思いやりを持ったケア」を管理者・職員は共有と実践に繋げる中で、利用者の尊重、安心のケアを心掛け、職員は明るく笑顔の絶えない雰囲気作りを意識し、利用者の主体性を大切に支援に取り組んでいます。地域貢献にも力を入れ「千歳中九州ミュージアム」を設立し、音楽・落語・絵画鑑賞等の催し物が、地域の皆様や利用者の楽しみになっており地域交流になっています。コロナも落ち着き、少しづつ面会や外出レクリエーション等の行事を復活させています。中には帰宅願望のある利用者の「ふるさと訪問」や買い物（個別支援）・ドライブ・外食等気分転換を図れるよう支援しています。また、家族からはコロナ禍で面会できない間、毎月届けられる広報誌「陽だまりの丘通信」で利用者の笑顔や元気な生活ぶりを見て、安心していると感謝の言葉がありました。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が職員の目に触れる場所に掲示することで、周知を図り理念に添った精神を持ち実践に繋げている	法人理念「人尊優顔」「地域貢献」をもとに事業所理念「優しい心と思いやり～」を管理者・職員でつくりあげています。毎月の会議で意識づけをするとともに、振り返り実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	千歳のミュージアム(施設所有)での催し物(歌・落語・絵画鑑賞)の参加。又神楽やマラソン大会等で地元の住民の方と触れ合いました。	コロナ禍で地域行事を自粛していましたが、運営推進会議で民生委員との情報交換を行い、現在は出来る範囲の交流を行っています。また、地域にミュージアムを開設し、地域の方々との交流や利用者の気分転換にも役立っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ミュージアムを作り絵画、音楽の交流の場として誰もがいつでも訪れることが出来る場所に利用者の方も時々参加して気分転換を図っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催が困難でしたが3月末に開催して多くの意見を頂きました。今年度のサービス向上に取り入れたいと思います。	コロナ禍の影響で今迄は開催に至っておらず、今年3月よりメンバーの参加により運営推進会議が開催されています。事業所の近況報告・利用状況・ヒヤリハット報告とその対策・広報誌配布等、皆様の意見を運営や業務見直しに活かしています。次回の会議では「避難訓練について」をテーマに開催する予定です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ケ月に一回運営委員会会議で指導を頂き、日頃から電話連絡で相談しながら協力関係を築いています。	運営推進会議の出席もあり、相談し指導を受けたり、課題があれば早急に対応を行っています。メールやグループラインによって情報交換を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回身体拘束廃止委員会を実施し、職員会議で検討しつつ絶対に拘束しないケアに取り組んでいる	月1回の陽だまり運営会議にて、声掛けの仕方等事例をもとに研修を行い身体拘束廃止・虐待防止の周知徹底に努めています。廊下には訪問者にも見えるよう事業所として身体拘束の理念及び廃止の定義及び説明を提示しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回虐待防止委員会を開いて、その後は職員に啓発を図る為文章を回し周知徹底をはかります		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に該当する利用者はいないが今年度は各制度を学ぶ機会を持つことが出来なかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書の説明を充分に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族等の希望などを聞く時間を設けている。	家族の面会時には、必ず近況報告を伝え、意見を聞き運営に反映させています。広報誌「陽だまりの丘通信」では写真を通して利用者の近況報告となっており、家族から好評の声が聞かれました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日一回職員会議を開いて、運営に反映するようにしている。	日常的な介護現場での打ち合わせや、毎月の会議時に職員の意見・提案を吸い上げ検討する機会を設けています。業務・行事は職員主体で運営されており、職員の意見は業務改善や利用者支援に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の働き方を考慮し、勤務時間を振り分けている。現場は自主性を大切にして働きやすい様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加するようにしている。又内部研修も行っている。資格習得には施設から費用を援助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	していない。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の中で様子観察を行い、個々に要望等に傾聴して安心して過ごして頂けるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時に本人の状態等と施設への要望等を聞いている。又毎月の広報誌で管理者が写真と日々の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞いて必要としている支援を提供出来る様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、畳んだり、テーブル拭きや掃き掃除等個々の出来る事を手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や広報誌で状態を報告している。又、ラインで日々の気になることは連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが落ち着いている時は面会を許可している。桜やチューリップのお花見など外出支援を行っている。	2月よりコロナが少し落ち着いた為、面会や外出支援を開始しています。花見やミュージアム見学等気分転換を図るとともに帰宅願望の利用者には家族に相談し、自宅にドライブ外出の支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前の体操・午後のレクレーション等9人皆で行うように毎日取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後はほとんど関わる事がありません		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の会議の中で検討して個々の対応を行うようにしてる。又、意思の疎通が図れる方には聞き取りをしている。	日々の会話や・行動・表情から本人の思いや意向の把握に努めています。常に本人の視点に立って考え、職員で検討し支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時、ご家族・関係機関から情報提供をしてもらい共有を図るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事・排泄のチェックを行い、一人一人の健康状態を把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の中で一人一人の対応を検討して計画作成担当者の下担当者会議を開き現状に即したプラン作りをしている。	家族の意見・担当職員及び医療関係者の意見を参考に、利用者のニーズを重視した介護計画を作成し、日々の個別支援に繋げるようにしています。毎月のモニタリング会議にて、実践状況を確認し、6ヶ月毎の計画見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録簿に日中・夜間の言動・様子などを記録している。また、変化した時は会議を開いて情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望の激しい方はふるさと訪問を行い、地元に帰り心身の安定を図るなどその時々に生まれるニーズに対応して利用者が楽しんで生活できるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援を行い、社会に触れることで喜び、笑顔が多くなれるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医を決め受診や訪問診察で連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。	以前からのホームドクター希望の利用者はいませんが、、事業所の協力医による定期的な訪問診療をして頂く事や、利用者各々の健康状態を毎日のバイタルチェックにて把握しています。病院受診の必要があれば職員同行で支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の関わりの中で、利用者の体調変化にいち早く気づいて看護師に伝えて適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院と連絡を取り情報収集に努めるようにしている。退院後はカンファレンスに参加して施設で安心して生活できるように共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の体調の変化は日々家族に報告している。その後の対応はどうするかなども話し合い方向性は決めるようにしている。	重度化から終末期に至るまでの日々を家族と話し合いを持ち、事業所において出来る事を家族の確認を得た上で、家族・医師・職員で連携を図り、看取り経験の多い職員が見守りながら、尊厳ある終末期を迎えられるよう支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署と連携を図り1年に1回、利用者の急変や事故発生時に備えてAEDの使い方、応急手当、心肺蘇生の指導を受けるように計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施、夜間の取り組みは出来ていない。災害時の対応は災害対策計画を作成して全職員に共有を図っている	災害時の避難訓練は、年二回実施しています。夜間帯での対応マニュアル作成については、関係職員の意見を集約中です。災害対策備蓄品は完備しており、災害時の連絡網や地震・台風等で生じうる道路寸断による職員の出勤不能の際の対応策も検討しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ言葉使いには気を付けるようにはしているが、ついなあなあ言葉になることがある。入浴や排泄時、オムツ交換時は個別対応してプライバシーの保護に努めている。	利用者が入所した段階から、一人ひとりの生活歴を聞き、聞いた情報を職員全員で共有の上で、尊厳を重視する支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声掛けを行い言葉を引き出すようにしている。個々の思いをしっかり受け止めて支援に結び付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前の体操、午後のレクレションは日課として決めている。皆さん楽しみにしている。体調を考慮して無理のない様に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参している服の中で季節に合わせて組み合わせ、汚れの無い様にいつも注意して綺麗に気持ちよく過ごせるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	業者に委託している食事内容は毎日肉、魚、季節の食材が入り、とても好評。残り物がない状態。準備、片付けが出来る利用者はいない。	業者委託の食事は利用者に好評で、必要に応じて一口大のきざみ食にしたり、食材が何かわかるように食べやすくして供しています。職員が持参する季節の果物なども、喜んで食べて頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	考えられた食事でカロリーも高齢者用でバランスも良い献立となっている。水分は1回150ccを4回、毎食時の3回で一日1050ccの摂取を目標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを徹底して行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時声掛け誘導を行いトイレでの排尿を促している。(オムツは1名で要介護4、全介助)	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレ誘導で自力排泄を継続できるよう支援しています。透析を行っている利用者にも、センサー使用でトイレ使用が出来ています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	3日おきに薬を飲んでいる利用者、マグミットの服用で排便調節を行っている。毎日水分補給と体操で全身運動を行い便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月・木と火・土で入浴日を決めている。午前の習慣も皆さん抵抗なく応じている。希望はなくタイミングに合わせることは事実上困難。	月・木と火・土の入浴は、午前中に順番どおり入って頂いており拒否者はいません。機械浴での安全確保とシャンプーの際にも、シャワー使用で問題なく清潔維持を保てています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活が夜間の入眠につながる。体操、レクレーション、散歩で心地よい疲れが残り皆さん良く休んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護士の指示の下、日時・名前をしっかり確認して配薬している。薬の目的・副作用・用法や用量は資料を見て確認するよう指示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リーダーが一日の流れを考え利用者を楽しく過ごせるよう取り組んでいる。(音楽を流して体操をしたり、いろいろなものを使い身体を動かすなどの工夫)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の強い方の故郷訪問を実施、また近くに車で出かけたり気分転換を図っている。家族・地域の人々の協力は依頼していない。	外出や帰宅願望者への希望がかなえられるようになり、利用者一人ひとりの希望に応じた支援ができるようになりました。これからは事業所の車で、近隣の道の駅や寿司店に行って、日常的に外出を楽しめるよう支援をしたいと思っています。	千歳アートミュージアムが、利用者の外出の拠点となることで、地域介護福祉支援センターとして、地域福祉のさらなる発展に寄与されることを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知が進んでおり現在お金所持をしている利用者はいない。又、買い物を希望する方もいないがいつでも対応することは出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでもできる状態にはしているが希望者は今のところいない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレも9人に対して3ヶ所あり混乱はない。天井も高く明かりを取り入れている。職員が季節の花を飾り四季折々の飾りも作成して、目で楽しむようにしている。	一日の大半を過す共用空間は、季節の移り変わりを楽しめるほど景色がよく、利用者が好きな場所で自由に過ごして頂けるよう、イスやテーブルの配置も安全に配慮して設置しています。大きな声を出す利用者も、居心地良く過して頂いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車椅子の方もホールにソファー・椅子を置いてゆっくりくつろげるようにしている。皆さん会話したり顔なじみとなり笑顔がよく出ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に応じて椅子を置いたり、テレビを設置して過ごして頂いている。また、温度・湿度計を置いて体調管理を行っている	居室は、利用者の好みの物を持って来て頂きリラックスできる部屋づくりを安全面に配慮して支援しています。テレビもコードで危なくないよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子5名・歩行器1名・自力歩行3名です。移動時に接触事故等が無い様、廊下は広く往来しやすい様にしている。又廊下には両方に手摺を設置して転倒防止など安全な環境作りをしている。		